

特集5

# 皮膚科サマースクール2019を終えて

第4回となった皮膚科サマースクールが今年も7月14～15日の1泊2日で行われました。本企画の目的は講演や実習を通して皮膚科に興味のある研修医に皮膚科の魅力を伝えることです。企画は好評で、参加希望者も増えてきたため、これまでの山梨県小淵沢の施設から会場を今年から

北海道虻田郡留寿都村のルスツホテル&コンベンションに移しました。それもあって、参加者は過去最多の62名でした。新千歳空港からバスで片道約2時間の同施設は、冬はスキーリゾートとして有名ですが、夏は涼しく、山あいの広々とした環境です。今年も小雨がぱらつく、あいにくの

天気ではありませんでしたが、野外活動を予定していた夜まで本格的な雨が降らなかつたのは幸運でした。バス移動では途中の休憩所でのこ汁やアイスクリームに舌鼓を打つなどして会場に到着、参加者自己紹介の後、早速ダーモスコピーの講義、実習で参加者の目が輝き始めました。セミナーキット講義では4名の先生が15名ほどの聴衆を相手に、近い距離で専門分野についてわかりやすく講義しました。そのあとはすっかり名物となった安部正敏先生による「皮膚科



集合写真

症例クイズ」で、今年も笑いが絶えない楽しい時間を過ごしてもらいました。夜は海の幸、山の幸がふんだんに盛り込まれたバーベキューを食べながら、すっかり参加者と講師が打ち解けました。丘の上のバーベキュー会場からホテルへ降りる途中、盛大に次々と火花が打ち上がり、しばし皆でみとれました。その後、懇親会では大山学先生が司会の「皮膚科Q&A」において、あらかじめ集めた参加者からの率直な皮膚科についての質問に丁寧に、答えていきました。翌日の早朝には希望者は、山頂までゴンドラで登りましたが、残念ながら絶景が雲に覆われていましたので、来年に期待です。ホテルに戻っての朝食は、北海道ならではの素材のバイキングで、皆大満足でした。2日目は中村泰大先生&タスクフォースの毎年大好評の縫合実習でのスタートでした。中村先生の自作の縫合ビデオをみながらの実習で、いつもその丁寧な指



皮膚縫合実習

導姿勢に頭が下がります。実習のあとは豪華講師陣の専門レクチャーが目白押しで参加者が聞き入っていました。修了証授与、全員での集合写真のあと、解散しましたが、希望者はさくらんぼ狩りに参加し、10種類以上もあるさくらんぼの食べ比べを楽しみました。本年も島田眞路前理事長、五十嵐敦之理事を始め、キャリア支援委員会からも有志の先生方がご参加くださり、サマースクールを盛り上げてくださいました。参加された先生方におかれましては、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本スクールの参加者の多くはその後皮膚科医となる

キャリアを選択しています。来年はオリンピックのため、開催は海の日ではなく、6月20～21日に行われますのでご注意ください。ぜひ、皮膚科に興味をもっている初期研修医に勧めていただければと思います。

スタッフ(敬称略、五十音順)

講師・タスクフォース…

安部正敏、石河晃、五十嵐敦之、岸晶子、古賀弘志、田中勝、千貫祐子、常深祐一郎、外川八英、中村泰大、皆川茜

皮膚外科テューター…

浅井純、大沼毅紘、小澤俊幸、加藤裕史、佐藤さゆり、佐藤洋平、田中隆光、中井康雄、前田拓哉、松谷泰祐、光榮文生

実行委員…

多田弥生(委員長)、大山学、高山かおる、蓮沼直子、山中恵一

執筆者

多田 弥生  
皮膚科サマースクール2019実行委員長  
帝京大学医学部皮膚科学教室教授

